

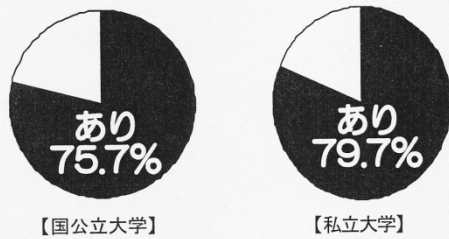
「負けたことがある」というのが
いつか大きな財産になる

マンガ SLAM DUNK (井上雄彦)

「小論文」にチャレンジしよう！

近年の大学入試は、小論文抜きでは語れないのが現状です。入試で小論文を課す大学は約8割にのぼるのです。
(第一学習社小論文ネットより引用)

図1:2015年度入試 小論文出題大学の割合(学部数)



小論文に必要な4つの力

実はこれらの力は、大学での学習や生活だけでなく、社会に出てからも必要とされる基礎的能力です。

* 読解力

設問・資料を客観的に読み取ったうえで、その背景まで読み取る力。

* 発想力

資料に疑問をぶついたり、自分なりの問い・具体例・アイデアなどを考えたりするときに使う力。

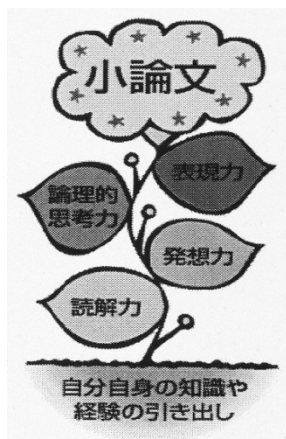
* 論理的思考力

発想力を使って洗い出した、課題に対する自分の意見や理由(根拠)を筋道立てて組み立てる力。

* 表現力

自分の考えを表現して、読み手に伝える力。

これら4つの力の、すべての土台になるのが、「自分自身」。自分の中に持っている経験やそこから得た実感、また各教科の知識、社会の出来事に対する知識、志望する学問の知識が「小論文を書くための材料」になるのだ。



「小論文」に大事なことは？

小論文に関する多くの書籍を手がける多摩大学の樋口裕一教授によると、小論文を書くときに大事なことは「YESかNOかを明確にすること」だという。はっきりとYESかNOか述べられていない文章は、読み手に明らかな認識不足の印象を与えるそうだ。

→ 「問題提起」する

YESかNOかを明確にする文章が小論文。そこで必要とされることは「問題提起」だ。3つのヒケツを紹介！

①賛否両論ある

一般的に意見が大きく偏る問題提起は避けた方が良いと言われる。当たり前の意見を書く、もしくは暴論を書くことになってしまうと評価が得られないからだ。

②自分の手に負える

時間内に自分の分かる範囲で書かなくてはならないため、調べないと分からないことは書かないのが原則。ただし、練習の過程では知識を増やすうえでも、調べたり、本を読んだりすることは有効だ。

③社会にとって大事なこと

個人的な主観では、社会全体にプラスかマイナスかということを考えて書く。個人の主観では、本質的な問題提起と言えない。

→ 攻略の鍵は型！「だろるかたしなよ」

問題提起「～だろるか」

↓

意見提示「たしかに～、しかし～」

↓

展開

「なぜなら～」

↓

↓

↓

結論「よって私は～と考える」

展開で論を深めることができるかどうか重要だ。困ったら「3W1H」！
WHY WHERE WHEN
HOW …説得力のあるアイデアを
絞り込み、展開を書いていこう！

苦手意識をなくして、小論文にチャレンジしましょう！

☆北九州市立大学

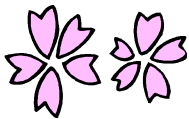
法学部 政策科学科 合格☆

推薦入試の試験内容は調査書30点、小論文300点という、小論文がメインでした。2年のときは2組で、部活に打ち込む毎日。大学に行こうと決めたのは高3になってから。受験を決意したのが8月。本格的に小論文の練習を始めたのが9月の後半で、スタートが遅かったなぁと感じています。

私の受験した法学部は、10000字程度の文章を読み、それについて述べるもので、文章を読むのも苦手、書くのも苦手…な私にとって、正直厳しいチャレンジでした。小論文の練習を他に4人一緒に指導を受けていたけれど、その4人に負けたくないという思いで、土日も返上で、毎日頑張りました。

ある程度自信がつき、「いける」と思っていたときに、過去問を規定時間通りに解いてみたところ、全く手も足も出ず、焦りました。受験まで残り1ヶ月をきった頃で、さすがに「ヤバイ！」と思い…そこから本当のスイッチが入りました。それからの私は、少しでも多くの情報を入れたくて、時間も惜しんで本を手にし、書けるだけ書きました。本番まで、本当に苦しくて、辛い日々でした。その甲斐あって、当日は練習の時のように書いて、いつも通り書け過ぎてビビるほどでした。

合格してみても思うことは、自分の為に時間を使って下さった先生方への感謝です。自分だけではスイッチは入りきらないままだったと思います。後輩のみなさん、自分を信じて最後までチャレンジして、諦めないことが1番大事です。応援しています。



☆北九州市立大学

文学部 人間関係学科 合格☆

私が受験を決めたのは10月の初旬でした。推薦入試は小論文を課すところが多く、私は小論文に抵抗を感じていたため、それまで推薦入試はまったく視野に入れていませんでした。でも、社会福祉と心理のどちらを学ぶか？と迷っていた私に、その両方を学ぶことができるこの大学を担当の先生が紹介してくださり、試験内容も私に合っているとアドバイスされ、受験を決意しました。

文学部の推薦入試の内容は、3ページほどの英語の長文を読み、そこから自分の意見を（日本語で）書く、というものでした。推薦入試受験を決めたときには、残り1ヶ月をきっ

ており、9月には小論文対策を始めていた周りの友人達には大きく遅れを感じていました。

まずは英文が読めないと言えないので、英語の先生に毎日英語の長文を出題してもらいました。最初の小論文は本番と同じ120分で行いました。結果は、あと何十字か足りないだけで、予想より良い結果でした。今までの小論文模試を見直したからだと思います。でも、それは最初だけで、2回目は全く書けず、そのやりなおしも良い出来ではなく…しばらくこの調子が続き、英語の長文もどんどん難しくなり、「もう無理なんじゃないか」ととにかく不安でした。そこから先生に改善点を教えてもらったり、苦手な題に取り組んだりしました。結局、時間内に書き切れたのは出発の数日前でした。時間内に書き切れたことで、自信を持って臨めました。

本番は、緊張することもなく、今までで一番早く書き切れたくらいでした。これまで、多くの人に心配をかけ、お世話になりました。支えてくれる人がいなければ、この学校を受けることもなかったと思います。とても感謝しています。



☆名城大学

人間健康学部 看護学科 合格☆

私の推薦入試では、小論文と面接がありました。受験までの約3ヶ月は、小論文と面接の練習をひたすら頑張りました。最初はなかなか小論文が書けず、論点や自分の意見をまとめることに苦労しました。字数も足りず、自分の知識の浅はかさを知りました。

面接練習では、質問されていることに対して答えることができず、自分の考えていることを言葉にして相手に伝えることの難しさを痛感しました。小論文練習と平行して、面接練習も1日3回以上の練習をしたり、1日でも休むと「練習したくないな」と思うこともありましたが、しかし、家族や友人、先生方と話し合ったり練習を重ねていくうちに自信がつき、自分の伝えたいことを表現できるようになりました。

一度はダメな時もありましたが、切り替えてまた頑張れたのは友人や先生方の支えがあったからだと思います。本番では小論文もしっかり書き上げることができ、最初は嫌だった面接もその頃には一番得意になり、笑顔で今までやってきたことを出し切れました。

受験は想像以上に辛く、逃げ出したくなる時もありますが、諦めずに努力すれば自分の夢を手に入れることができます。自分の進路目標を早めに定め、受験に必要なものに早く取り組み、夢の実現のために頑張ってください。